

ワーキンググループの報告に対する意見

NPO 法人地域医療を育てる会
藤本晴枝

本日は所要のため、チーム医療推進会議に出席することが出来ず、申し訳ありません。

「チーム医療推進方策検討ワーキンググループ」および「チーム医療推進のための看護業務検討ワーキンググループ」の報告を拝見し、以下、感じたことを申し上げさせていただきます。

- ①看護業務実態調査の報告がありましたが、看護職だけを取り上げているのは不十分であると考えます。

また、アンケートという調査方法のみで十分なのか疑問を感じました。

チーム医療の定義もさまざまですが、大きく「院内スタッフによる院内のチーム医療」と、「地域をフィールドにした各機関の連携によるチーム医療」といった大きなカテゴリーで分けて、病院の規模ごとにそれぞれ事例を集積し、現状の中で各職種が出来ることを整理したほうが良いと思います。

- ②地域によっては、圧倒的に人手が不足しているところがあり、医師の業務を委譲された看護師が疲弊してしまう可能性もあります。医療クラーク、看護助手などの人件費の担保が必要なところもあると思います。国として、こうした経費の手当てを考慮すべきだと思います。

- ③医療者を目指す人々への教育も、チーム医療を見据えたものにしていくことが必要です。本年 8 月に、千葉県の九十九里沿岸部では、県立病院と当 NPO 法人を含めた地元各機関が協働して、他職種による医療セミナーを開催しました。参加者の感想の中には、地域医療の現場に触れた喜びとともに、初めて自分とは異なる職業を目指す学生と出会ったことを高く評価しているものが多くありました。

他職種によるチーム医療を体験できる実習先、研修機関を確保し、チームの一員としての自覚を持った医療人を育てることが大切と考えます。このような教育をする機関にインセンティブをつけることが必要です。厚労省と文科省の連携を望みます。

最後に、

会議の全体的な方向として、医師側が他職種に権限を委譲することに対して消極的な印象を受けます。医師の皆様には、患者に質の高い医療を提供するという視点に立ってご議論をいただきたく、切にお願い申し上げます。

また、他職種の皆様には、「チームに入れていただく」といった消極的なスタンスではなく、患者にとってより身近な医療職として、それぞれの専門性を十分に発揮できるチームのあり方についてご議論いただければと思います。

以上よろしく願いいたします。